



2026年2月18日

各 位

会 社 名 K T C (京都機械工具株式会社)  
代表者名 代表取締役社長 伊吹 和彦  
(コード 5966 東証スタンダード)  
問合せ先 執行役員 戦略企画部長 重田 和麻  
(TEL 0774-46-3700)

### 「KTC vision 2030」第1次中期経営計画の結果報告及び 第2次中期経営計画について

当社は、2022年11月に公表したKTCグループ長期ビジョン「KTC vision 2030」の「第1次中期経営計画(2022年4月～2025年3月)」につきまして、その結果を取り纏めましたのでお知らせいたします。

本来であれば、当該期間が終了次第速やかに公表すべきところ、2025年5月以降の各種適時開示にて公表しておりますとおり、当社連結子会社である北陸ケーティシーツール株式会社における不適切な会計処理事案が発生したため、公表が遅れましたことを深くお詫び申し上げます。

なお、2025年度は第2次中期経営計画の初年度となる予定でしたが、当社連結子会社である北陸ケーティシーツール株式会社における不適切な会計処理事案や、当社製品のデジタルトルクレンチの自主回収事案の発生を受け、「コーポレート・ガバナンスの強化」及び「内部統制の整備」、「品質体制の見直し」を喫緊の課題と認識し、2025年度は経営基盤の立て直しが最優先事項であると判断いたしました。

そのため、現時点におきまして、第2次中期経営計画等の公表ができておりません。今後の対応につきましては、現在鋭意検討しており、内容が固まり次第速やかにお知らせいたします。

以 上

***KTC***

# KTC vision 2030

第1次中期経営計画（2022～2024年度）の結果報告 及び  
第2次中期経営計画について

2026/2/18

KYOTO TOOL CO., LTD.

# 目次

1. 第1次中期経営計画 実績
2. 第1次中期経営計画 戦略
3. サステナビリティ（ESG取組）
4. 第2次中期経営計画について

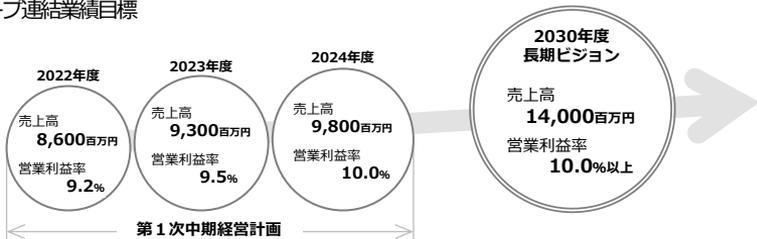
# 第1次中期経営計画 実績

KTC

## KTC vision 2030 基本方針

社会の期待を超えたツールで、人の能力を拡張し、世の中の安全を創り出す

グループ連結業績目標



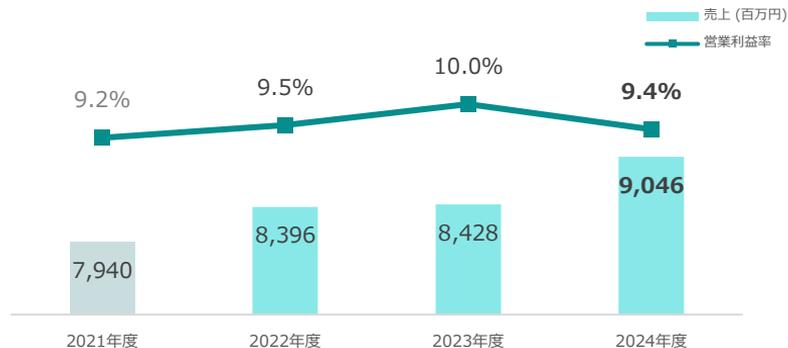
## 第1次中期経営計画 基本方針

つながる&見える化で、新たなモビリティ ファクトリー インフラを攻略する



KTC vision 2030 の達成に向けた成長基盤構築のステップと位置付け、戦略を推進する

## グループ連結業績



第1次中期経営計画の最終年度となる2024年度は、先にある長期ビジョン「KTC vision 2030」達成に向けて注力すべき市場・分野が明確になってきたことから、重点戦略を4つに絞り込み（詳細は次頁をご参照ください）、計画を推進いたしました。

4つの重点戦略に経営資源を集中することで一定の成果を得ることができましたが、進捗のスピードが計画に届かず、目標の連結売上高9,800百万円（実績9,046百万円）、営業利益率10%（同9.4%）とも未達に終わりました。

また、こうした中、連結子会社である北陸ケーティシーツール株式会社における不適切会計事案や、重点戦略製品であるデジタルトルクレンチの自主回収が発生し、重点戦略の推進に加えて、経営基盤の立て直しが喫緊の課題となっております。

### 成果

- ✓ 注力すべき市場・分野を特定し、重点戦略を4つに絞り込み
- ✓ 重点戦略に経営資源を集中投下することで一定の成果
- ✓ HI-TOOL子会社化により、新たなインフラ・海外市場を開拓

### 喫緊の課題

- コーポレート・ガバナンスの強化
- 内部統制の整備
- 品質体制の見直し

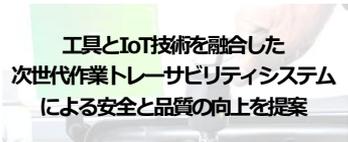
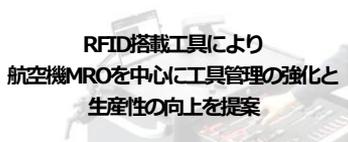
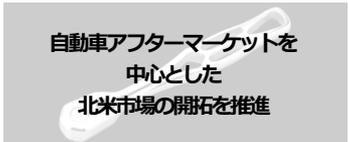
経営基盤の立て直し

# 第1次中期経営計画 戦略

KTC

第1次中期経営計画の最終年度となる2024年度は、長期ビジョン達成に向け、4つの具体的な戦略に重点を絞り、計画を推進してまいりました。その結果、一定の成果を得ると共に、今後取り組むべき課題も明確になってきております。

## [ 戦略骨子 ] 今までの概念を覆す - リーディングカンパニーの伝統を活かす - 新たなチャンスに挑戦

重点戦略	成果	課題
<b>1. TRASAS</b>  工具とIoT技術を融合した次世代作業トレーサビリティシステムによる安全と品質の向上を提案	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ ヘッド形状のラインナップ拡充</li><li>✓ 大トルク領域のラインナップ拡充</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• システム開発体制の強化</li><li>• ソフトのアップデートや他社連携の強化</li><li>• ソリューション営業体制の強化</li></ul>
<b>2. RFID</b>  RFID搭載工具により航空機MROを中心に工具管理の強化と生産性の向上を提案	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 製品の詳細仕様確定</li><li>✓ 世界特許取得</li><li>✓ MRO Technology Achievement of the Yearファイナリスト選出</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• ブランドカ・認知度の向上</li><li>• 商流・物流の整備</li><li>• 製品ラインナップの早期拡充</li></ul>
<b>3. nepros 北米展開</b>  自動車アフターマーケットを中心とした北米市場の開拓を推進	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 商材としての魅力は十分（高品質、米国市場との相性）</li><li>✓ 大手ディストリビューターとの関係を構築</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• ブランドカ・認知度の向上</li><li>• 流通網の更なる強化</li><li>• 現場ニーズに合致した製品開発</li></ul>

## 4. 戦略を支える サプライチェーンマネジメント強化

# サステナビリティ（ESG取組）

－ 地球に、社会に、私たちができること －

KTC

## 主なESG取組目標

長期ビジョン  
2030年度 数値目標

温室効果ガス排出量 2013年度比 50%削減

第1次中期経営計画  
2024年度 数値目標

- E** ・ 温室効果ガス排出量 2013年度比 15%削減  
・ 廃棄物の排出量 2021年度比 14%削減
- S** ・ 重大不良外部流出、重大品質クレーム ゼロ  
・ 災害、ハラスメント ゼロ
- G** ・ 法令違反、社内不祥事案 ゼロ

## E 地球環境に徹底的に貢献する

第1次中期経営計画  
2024年度 目標

2024年度 実績

温室効果ガス排出量（2013年度比）

15% 削減

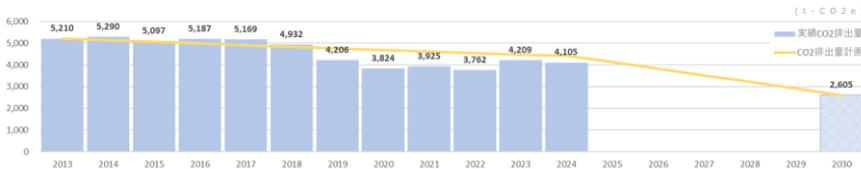
21.7% 削減

廃棄物の排出量（2021年度比）

14% 削減

15.7% 削減

## 【温室効果ガス排出量 推移】



2024年度は、温室効果ガス排出量 2013年度比「21.7%削減」、廃棄物排出量 2021年度比「15.7%削減」となり、当初の目標を上回る結果となりました。しかし、今後の成長戦略を推進するにあたり、生産設備の増強や生産量の増加が見込まれることから、温室効果ガス、廃棄物ともに更なる排出量削減が必要であり、2025年度以降も地球環境に貢献するために積極的に取り組んでまいります。

## ◀2024年度の取組（抜粋）▶

省エネタイプの空調や生産設備の導入・更新、効率の良い生産方法への切替、環境負荷物質の管理強化

## S あらゆるステークホルダーと共生する

2024年度は、災害、ハラスメント「ゼロ」となりました。

しかしながら、重大不良外部流出、重大品質クレームにおいては、当社製品のデジタルメトリクスをご使用いただいております一部のお客様において、トルク値が正しく表示されない事象が確認されました。そのため、当社では、その原因の究明と対策を検討し、2025年8月より製品の自主回収及び対策を施しております。

安全、安心な社会の実現を目指し、その基礎となる作業現場で働くお客様の安全を担う企業として、再発防止に向け、全社を挙げて取り組んでまいります。

また、事業を維持・向上、変革させる源泉は人材であり、当社グループは、価値創出を担う人材育成を目指した各種制度を充実させると共に、社会的潮流を汲み取った「働き方の新しいスタイル」を追求し、一人ひとりが決意で積極的に働きやすい職場環境を整備することで、KTCグループの成長を実現してまいります。

## ◀2024年度の取組（抜粋）▶

製品改善委員会による品質改善活動、従業員向け品質研修、健康経営2025器具(6年連続)、統合サーベイ実施と分析及び対策、学校・企業向け工場見学、外部団体とのイベント共催

## G 持続可能な信頼される企業であり続ける

2025年5月以降の各種情報開示にて公表しており、当社連結子会社である北陸ケーティーツール株式会社（以下「北陸KTC」と言います。）において、不適切な会計処理の疑義が確認され、事実関係の更なる調査、原因の究明、再発防止の徹底を目的として特別調査委員会を設置し、調査を行いました。

その結果、製品や仕掛品、原材料や貯蔵品等の過大計上による不適切な会計処理が判明いたしました。不正に至った主な原因は、親会社からの営業黒字達成のプレッシャー、在庫管理に関する内部統制の不備、北陸KTCの経営に対する取締役の対応の不足など、コーポレート・ガバナンスの不備によるものと分析しております。

現在、上記の原因分析結果を踏まえ、(1)北陸KTCにおける内部統制の整備・運用、(2)グループとしての一体感の醸成を主眼とした北陸KTCの位置付きの見直し、(3)ガバナンスの再構築、(4)上場会社としての信頼性確保に向け全社的な意識改革を再発防止策の柱として位置付け、具体的な取り組みを策定し、運用を開始しております。策定した再発防止策を着実に遂行することで、原因となったコーポレート・ガバナンスを強化し、健全な経営体制を構築してまいります。

ガバナンス体制については会社ホームページにて公表しております。下記URLをご参照ください。

<https://kic.co.jp/management/governance/>

ESG目標や取組実績の詳細については会社ホームページに公開しております。下記URLをご参照ください。

<https://kic.co.jp/future/>

## 第2次中期経営計画について

当社グループにおきましては、2022年度より2030年度を最終年度とするKTCグループ長期ビジョン「KTC vision 2030」を掲げております。

2030年度までの9年間で3フェーズに分け、2025年度は第2次中期経営計画の初年度となる予定でしたが、当社連結子会社である北陸ケーティシーツール株式会社における不適切な会計処理事案や、当社製品のデジタルトルクレンチの自主回収事案の発生を受け、「コーポレート・ガバナンスの強化」及び「内部統制の整備」、「品質体制の見直し」を喫緊の課題と認識し、2025年度は経営基盤の立て直しが最優先事項であると判断いたしました。

そのため、今中期経営計画等の公表ができておりません。現在、鋭意検討しており、内容が固まり次第速やかにお知らせいたします。

## その他特記事項

本資料に記載されている当社の方針、業績や技術、製品、サービス等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。